

2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月1日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社西武ホールディングス

コード番号 9024 URL <https://www.seibuholdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼COO (氏名) 西山 隆一郎

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員広報部長 (氏名) 多々良 嘉浩 TEL 03-6709-3112

四半期報告書提出予定日 2023年8月2日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け電話会議）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	116,212	12.4	14,653	92.2	13,815	84.0	9,099	148.1
2023年3月期第1四半期	103,432	12.7	7,624	—	7,509	—	3,668	—

（注）包括利益 2024年3月期第1四半期 14,287百万円（64.6%） 2023年3月期第1四半期 8,682百万円（-％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	30.23	30.22
2023年3月期第1四半期	12.21	12.20

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	1,579,120	385,941	24.1
2023年3月期	1,587,834	377,633	23.5

（参考）自己資本 2024年3月期第1四半期 380,650百万円 2023年3月期 372,451百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	5.00	—	20.00	25.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	12.50	—	12.50	25.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	236,000	11.0	23,000	71.4	20,000	57.1	13,000	△79.9	43.19
通期	462,000	7.8	36,000	62.5	30,000	49.0	24,000	△57.7	79.74

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名 ー）、除外 ー社（社名 ー）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	323,462,920株	2023年3月期	323,462,920株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	22,433,484株	2023年3月期	22,482,684株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	301,015,736株	2023年3月期1Q	300,516,687株

(注) 1 株式給付信託が保有する当社株式を、期末自己株式数に含めております（2024年3月期1Q 236,700株、2023年3月期 285,900株）。また、株式給付信託が保有する当社株式を、期中平均株式数（四半期累計）の計算において控除する自己株式に含めております（2024年3月期1Q 250,400株、2023年3月期1Q 705,119株）。

2 持分法適用関連会社が保有する自己株式（当社株式）の当社帰属分を、期末自己株式数に含めております（2024年3月期1Q 21,998,594株、2023年3月期 21,998,594株）。また、持分法適用関連会社が保有する自己株式（当社株式）の当社帰属分を、期中平均株式数（四半期累計）の計算において控除する自己株式に含めております（2024年3月期1Q 21,998,594株、2023年3月期1Q 21,998,594株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び不確実な要因に係る仮定を前提として作成しており、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。

業績予想（2024年3月期の連結業績予想）に関する事項については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結損益計算書関係)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されておりますが、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意が必要な状況であります。

このような状況の中、当社グループは、当第1四半期連結累計期間において、3ヵ年目となる「西武グループ中期経営計画（2021～2023年度）」のもと、「アフターコロナの社会における目指す姿」を見据え、コロナショックを乗り越え、飛躍への道筋をつける。」をテーマに、「経営改革」「デジタル経営」「サステナビリティ」の3点を骨子とした取り組みを進めてまいりました。

「経営改革」については「アセットライトな事業運営」「損益分岐点の引き下げ」「ニューノーマルに合わせたサービス変革」というテーマに加え、「都市交通・沿線事業の経営改革」に取り組んでまいりました。中でも「都市交通・沿線事業の経営改革」については、2023年4月1日に西武鉄道株式会社が、中核事業である鉄道業、ならびに沿線価値創造機能に特化するため、西武園ゆうえんちなど鉄道業以外の不動産を当社連結子会社である株式会社西武リアルティソリューションズへ移管いたしました。また、西武園ゆうえんちについては運営主体を当社連結子会社である株式会社横浜八景島へ変更いたしました。このような運営体制の見直しにより、より専門性を高め、収益力の強化やグループシナジーを発揮できる最善の組織・体制のもと運営をおこなっております。

「デジタル経営」については、「グループマーケティング基盤」の利活用を開始し、グループ顧客の拡充に向けたサービス構築に取り組んだほか、管理系基幹システムのグループ共通システム化などを進め、業務改革、働き方改革を実現し、固定費削減に努めました。

「サステナビリティ」については、引き続き安全、環境、社会、会社文化の4領域12項目のアジェンダにおいて持続可能な社会実現のため「サステナビリティアクション」に取り組んでまいりました。環境領域においては、西武バス株式会社では2023年4月より100%再生エネルギーで走る大型電気路線バスの導入を開始いたしました。また、箱根湯の花プリンスホテルにおいて、2023年6月より神奈川県で初となるバイナリー発電設備を導入いたしました。

当第1四半期連結累計期間における経営成績の概況は、新型コロナウイルス感染症の5類移行にともなう需要の増加を着実に取り込み、加えて値上げの取り組みにより、営業収益は、1,162億12百万円と前年同期に比べ127億79百万円の増加（前年同期比12.4%増）となりました。営業利益は、増収により、146億53百万円と前年同期に比べ70億29百万円の増加（同92.2%増）となり、償却前営業利益は、277億57百万円と前年同期に比べ63億15百万円の増加（同29.5%増）となりました。

経常利益は、138億15百万円と前年同期に比べ63億5百万円の増加（同84.0%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、90億99百万円と前年同期に比べ54億31百万円の増加（同148.1%増）となりました。

各セグメントにおける業績は以下のとおりであります。
 なお、当第1四半期連結会計期間よりセグメントの区分を変更しております。

（単位：百万円）

セグメントの名称	営業収益			営業利益			償却前営業利益		
	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比 増減	前年同期比 増減率 (%)	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比 増減	前年同期比 増減率 (%)	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比 増減	前年同期比 増減率 (%)
都市交通・沿線事業	36,349	2,026	5.9	5,355	2,306	75.7	10,384	2,420	30.4
ホテル・レジャー事業	53,039	7,327	16.0	3,524	3,918	—	7,440	3,029	68.7
不動産事業	19,789	2,038	11.5	3,939	629	19.0	6,826	583	9.3
その他	13,416	1,703	14.5	1,618	319	24.6	2,637	456	21.0
合計	122,595	13,096	12.0	14,437	7,174	98.8	27,288	6,489	31.2
調整額	△6,383	△316	—	215	△145	△40.2	468	△174	△27.1
連結数値	116,212	12,779	12.4	14,653	7,029	92.2	27,757	6,315	29.5

- （注） 1 調整額については、主に連結会社間取引消去等であります。
 2 償却前営業利益は、営業利益に減価償却費及びのれん償却額を加えて算定しております。
 3 当第1四半期連結会計期間より、以下3点につき、グループ内の専門性強化の観点からセグメント区分を変更しており、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えて比較しております。
- ・都市交通・沿線事業に含んでいた西武園ゆうえんち等について、ホテル・レジャー事業へ移管。
 - ・都市交通・沿線事業に含んでいたとしまえん跡地賃貸等について、不動産事業へ移管。
 - ・不動産事業に含んでいた一部ゴルフ場等運営管理について、ホテル・レジャー事業へ移管。

（都市交通・沿線事業）

都市交通・沿線事業の内訳は鉄道業、バス業、沿線生活サービス業、スポーツ業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	2023年3月期 第1四半期 連結累計期間	2024年3月期 第1四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	34,323	36,349	2,026
鉄道業	22,435	24,743	2,307
バス業	5,489	5,884	394
沿線生活サービス業	4,782	4,323	△458
スポーツ業	689	472	△216
その他	925	925	△0

- （注） 当第1四半期連結会計期間より、「都市交通・沿線事業の経営改革」にともない、都市交通・沿線事業の内訳を変更しております。前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えて比較しております。

鉄道業では、としまえん跡地に開業した「ワーナー ブラザース スタジオツアー東京 - メイキング・オブ・ハリウッド・ポッター」と連携し、池袋駅と豊島園駅のリニューアルやフルラッピング電車「スタジオツアー東京 エクスプレス」の運行を実施し、豊島園駅周辺エリアの活性化に取り組みました。

バス業では、高速バスの一部減便はあるものの、需要の回復に合わせて運行ダイヤを順次戻し、着実に需要の取り込みができるよう努めました。

都市交通・沿線事業の営業収益は、リモートワークの定着などにより定期利用の回復は限定的であるものの、新型コロナウイルス感染症の5類移行にともなう需要の増加を着実に取り込み、定期外利用やレジャー施設の利用が進み、363億49百万円と前年同期に比べ20億26百万円の増加（同5.9%増）となりました。なお、鉄道業の旅客輸送人員は前年同期比4.9%増（うち定期4.1%増、定期外6.1%増）、旅客運輸収入は、前年同期比10.6%増（うち定期8.8%増、定期外11.9%増）となりました。営業利益は、53億55百万円と前年同期に比べ23億6百万円の増加（同75.7%増）となり、償却前営業利益は、103億84百万円と前年同期に比べ24億20百万円の増加（同30.4%増）となりました。

(ホテル・レジャー事業)

ホテル・レジャー事業の内訳は国内ホテル業（保有・リース）、国内ホテル業（MC・FC）、海外ホテル業（保有・リース）、海外ホテル業（MC・FC）、スポーツ業（保有・リース）、スポーツ業（MC・FC）、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	2023年3月期 第1四半期 連結累計期間	2024年3月期 第1四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	45,712	53,039	7,327
国内ホテル業（保有・リース）	29,059	31,295	2,235
国内ホテル業（MC・FC）	66	2,620	2,553
海外ホテル業（保有・リース）	7,414	9,115	1,701
海外ホテル業（MC・FC）	40	113	73
スポーツ業（保有・リース）	4,009	3,108	△900
スポーツ業（MC・FC）	—	501	501
その他	5,122	6,284	1,162

(注) 当第1四半期連結会計期間より、「都市交通・沿線事業の経営改革」にともない、ホテル・レジャー事業の内訳を変更しております。前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えて比較しております。

国内ホテル業では、ホテルオペレーターである株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイドが運営をおこなう、G7広島サミットの主会場となったグランドプリンスホテル広島、外相会合の会場となった軽井沢プリンスホテル、気候・エネルギー・環境大臣会合の会場となった札幌プリンスホテルの3ホテルで、観光品質認証制度「サクラクオリティ」及びSDGsを実践する宿泊施設の国際認証「Sakura Quality An ESG Practice（通称：サクラクオリティグリーン）」を同時取得するなどお客さまに安全・安心を追求したサービスを引き続き提供できるよう努めてまいりました。サービスの向上に合わせ、レベニューマネジメントを強化し、値上げに取り組んでおります。引き続き新規出店も進めており、「グランドプリンスホテル大阪ベイ」を2023年7月1日にリブランドオープンいたしました。

海外ホテル業では、株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイドが北野合同建物株式会社の米国法人Kitano Arms Corporationと、ニューヨークのホテル「ザ・キタノホテル ニューヨーク」の運営開始に向け準備を進めております。

そのほか、2023年4月1日より株式会社横浜八景島が「西武園ゆうえんち」の運営を受託し、新体制による営業をおこなっております。

ホテル・レジャー事業の営業収益は、国内ホテルやハワイ、レジャー施設において回復に向かう需要に加え、インバウンド需要の着実な取り込みや値上げの取り組みなどにより、530億39百万円と前年同期に比べ73億27百万円の増加（同16.0%増）となりました。なお、ホテル業のRevPAR（注）については、11,989円と前年同期に比べ6,607円増となりました。営業利益は、増収により、35億24百万円と前年同期に比べ39億18百万円の改善（前年同期は、営業損失3億94百万円）となり、償却前営業利益は、74億40百万円と前年同期に比べ30億29百万円の増加（同68.7%増）となりました。

(注) RevPARとは、Revenue Per Available Roomの略であり、宿泊に係る収入を客室総数で除したものです。

(不動産事業)

不動産事業の内訳は不動産賃貸業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	2023年3月期 第1四半期 連結累計期間	2024年3月期 第1四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	17,750	19,789	2,038
不動産賃貸業	10,330	10,852	522
その他	7,420	8,936	1,516

(注) 当第1四半期連結会計期間より、「都市交通・沿線事業の経営改革」にともない、不動産事業の内訳を変更しております。前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えて比較しております。

不動産賃貸業では、西武鉄道沿線の遊休地を活用し、趣味や生活を安全・安心かつ快適にお過ごしいただける賃貸ガレージハウス「エミベース」の2号物件となる「エミベース 小手指」を2023年秋の竣工に向けて、着工いたしました。

また、PM、BM業務の内製化など、固定費削減策に取り組みました。

不動産事業の営業収益は、西武造園における工事出来高の増加や東京ガーデンテラス紀尾井町におけるテナント入居の影響などにより197億89百万円と前年同期に比べ20億38百万円の増加（同11.5%増）となり、営業利益は、39億39百万円と前年同期に比べ6億29百万円の増加（同19.0%増）となり、償却前営業利益は、68億26百万円と前年同期に比べ5億83百万円の増加（同9.3%増）となりました。

(その他)

スポーツ事業においては、ベルーナドームを最大限活用したサービスや演出、イベント開催などにより、楽しんでいただけるスポーツ・エンターテインメント体験の提供に努めてまいりました。伊豆箱根事業では伊豆・三津シーパラダイスを中心に回復に向かう観光需要の取り込みに努めたほか、近江事業においては、鉄道事業の公有民営方式による上下分離移行に向けた準備などを進めてまいりました。

営業収益は、埼玉西武ライオンズの観客動員数の増加や、グッズ販売の好調などにより、134億16百万円と前年同期に比べ17億3百万円の増加（同14.5%増）となり、営業利益は、16億18百万円と前年同期に比べ3億19百万円の増加（同24.6%増）となり、償却前営業利益は、26億37百万円と前年同期に比べ4億56百万円の増加（同21.0%増）となりました。

また、都市交通・沿線事業及びホテル・レジャー事業におけるスポーツ業、ならびにその他に含まれるスポーツ事業の営業収益の合計は、119億44百万円であり、前年同期に比べ3億80百万円の増加（同3.3%増）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、前回公表時（2023年5月11日）と変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,988	23,753
受取手形、売掛金及び契約資産	29,991	26,693
分譲土地建物	5,322	5,285
商品及び製品	1,151	1,204
未成工事支出金	102	305
原材料及び貯蔵品	3,169	3,364
その他	28,744	25,731
貸倒引当金	△95	△76
流動資産合計	94,373	86,263
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	497,252	491,833
機械装置及び運搬具（純額）	62,947	60,676
土地	660,547	660,707
リース資産（純額）	13,807	13,858
建設仮勘定	127,105	128,065
その他（純額）	17,087	16,526
有形固定資産合計	1,378,748	1,371,667
無形固定資産		
リース資産	24	22
その他	23,221	22,208
無形固定資産合計	23,245	22,231
投資その他の資産		
投資有価証券	61,617	68,632
長期貸付金	269	285
退職給付に係る資産	15,893	15,381
繰延税金資産	5,330	5,362
その他	8,654	9,614
貸倒引当金	△299	△317
投資その他の資産合計	91,466	98,958
固定資産合計	1,493,460	1,492,857
資産合計	1,587,834	1,579,120

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,566	13,161
短期借入金	131,537	152,346
リース債務	1,136	1,128
未払法人税等	9,603	2,238
前受金	103,280	120,562
賞与引当金	5,871	10,749
債務保証損失引当金	809	805
その他の引当金	1,977	2,001
資産除去債務	66	62
その他	96,018	48,191
流動負債合計	367,867	351,248
固定負債		
社債	50,000	50,000
長期借入金	593,136	589,339
鉄道・運輸機構長期未払金	6,014	6,014
リース債務	10,563	10,547
繰延税金負債	104,326	107,576
再評価に係る繰延税金負債	7,829	7,829
役員退職慰労引当金	431	404
役員株式給付引当金	279	241
その他の引当金	69	73
退職給付に係る負債	19,809	19,940
資産除去債務	1,556	1,558
持分法適用に伴う負債	15,449	15,117
その他	32,865	33,291
固定負債合計	842,333	841,931
負債合計	1,210,201	1,193,179
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	96,519	96,519
利益剰余金	241,154	244,228
自己株式	△53,174	△53,087
株主資本合計	334,499	337,660
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,227	13,548
土地再評価差額金	11,580	11,580
為替換算調整勘定	15,431	15,666
退職給付に係る調整累計額	2,711	2,193
その他の包括利益累計額合計	37,951	42,989
新株予約権	193	193
非支配株主持分	4,988	5,097
純資産合計	377,633	385,941
負債純資産合計	1,587,834	1,579,120

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
営業収益	103,432	116,212
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	85,679	91,890
販売費及び一般管理費	10,128	9,668
営業費合計	95,808	101,558
営業利益	7,624	14,653
営業外収益		
受取利息	1	3
受取配当金	439	554
バス路線運行維持費補助金	108	110
持分法による投資利益	0	—
為替差益	803	496
雇用調整助成金等受入額	※1 546	※1 12
その他	602	303
営業外収益合計	2,502	1,480
営業外費用		
支払利息	2,019	1,897
持分法による投資損失	—	65
その他	598	355
営業外費用合計	2,617	2,318
経常利益	7,509	13,815
特別利益		
固定資産売却益	178	2
工事負担金等受入額	50	40
補助金収入	16	55
特別利益合計	246	97
特別損失		
減損損失	295	1
固定資産売却損	—	23
固定資産除却損	262	249
工事負担金等圧縮額	50	38
固定資産圧縮損	15	50
投資有価証券評価損	141	0
その他	10	14
特別損失合計	776	377
税金等調整前四半期純利益	6,979	13,535
法人税、住民税及び事業税	1,902	2,636
法人税等調整額	1,085	1,653
法人税等合計	2,987	4,289
四半期純利益	3,992	9,246
非支配株主に帰属する四半期純利益	323	146
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,668	9,099

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	3,992	9,246
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,840	5,320
為替換算調整勘定	3,447	238
退職給付に係る調整額	△597	△517
その他の包括利益合計	4,690	5,041
四半期包括利益	8,682	14,287
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,351	14,137
非支配株主に係る四半期包括利益	330	150

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結損益計算書関係）

※1 雇用調整助成金等受入額

雇用調整助成金等受入額は、新型コロナウイルス感染症の影響にともない、雇用調整助成金等の特例措置の適用を受けたものであります。

（セグメント情報）

I 前第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	都市交通 ・沿線事業 (注) 1	ホテル・ レジャー事業 (注) 1	不動産事業 (注) 1	その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 4
営業収益	34,323	45,712	17,750	11,712	109,499	△6,066	103,432
セグメント利益 又は損失(△)	3,048	△394	3,309	1,299	7,263	360	7,624

（注）1 当第1四半期連結会計期間より、以下3点につき、グループ内の専門性強化の観点からセグメント区分を変更していることから、前第1四半期連結累計期間の数値を変更後のセグメント区分に組み替えております。

- ・都市交通・沿線事業に含んでいた西武園ゆうえんち等について、ホテル・レジャー事業へ移管。
- ・都市交通・沿線事業に含んでいたとしまえん跡地賃貸等について、不動産事業へ移管。
- ・不動産事業に含んでいた一部ゴルフ場等運営管理について、ホテル・レジャー事業へ移管。

2 「その他」の区分には、伊豆箱根事業、近江事業、スポーツ事業及び新規事業を含んでおります。

3 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 営業収益の調整額△6,066百万円については、主に連結会社間取引消去等であります。

(2) セグメント利益又は損失(△)の調整額360百万円については、主に連結会社間取引消去等であります。

4 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	都市交通 ・沿線事業	ホテル・ レジャー事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
営業収益	36,349	53,039	19,789	13,416	122,595	△6,383	116,212
セグメント利益	5,355	3,524	3,939	1,618	14,437	215	14,653

（注）1 「その他」の区分には、伊豆箱根事業、近江事業、スポーツ事業及び新規事業を含んでおります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 営業収益の調整額△6,383百万円については、主に連結会社間取引消去等であります。

(2) セグメント利益の調整額215百万円については、主に連結会社間取引消去等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。